

油井亀美也宇宙飛行士

ロングインタビュー

「搭乗まで1年を切って」

「今回の帰国では温泉に行ってゆっくり過ごす余裕はありませんが、大好きなラーメンや、秋を感じるさんま、おいしいものを故郷で食べるのを楽しみにしている」と語った油井宇宙飛行士。搭乗まで1年を切った今、先輩である若田光一宇宙飛行士の活躍ぶりや、いよいよ自身の搭乗を控えた今の心境・過ごし方などについて、残暑が厳しい東京でインタビューを行いました。

聞き手：JAXA's 編集部



日本人宇宙飛行士であることの矜持

——8月、訓練帰国と故郷の長野県への表敬目的で帰国したと聞いております。来年、最後の帰国をした後は、いよいよ油井宇宙飛行士の搭乗になりますが、今の心境と直近の若田宇宙飛行士の活躍ぶりを見て感じられたことを教えてください。

油井 やることはたくさんありますが、自分のタスクをきちんとこなし、ミッションが達成できるよう日々訓練にまい進しています。皆さんもご存知の通り、直近に行かれた日本人は船長を務めた若田宇宙飛行士です。若田宇宙飛行士は4度の搭乗実績から海外の宇宙機関でも非常に信頼されています。経験に裏付けされた彼の絶大なりリーダーシップには、和を大切にされた他の方への配慮も並々ならない様子がかえります。

若田宇宙飛行士のミッションが成功したのは、当然サポートクルーも力量がある方ばかりなのですが、彼らの力を最大限に引き出すのもリーダーである船長の資質からとも言えるでしょう。若田宇宙飛行士の活躍が「日本

人のリーダーシップ」としても紹介される機会が多いのは非常にうれしいです。

——若田宇宙飛行士から、帰還後、直接の言葉がありましたか？

油井 「次を頑張してほしい」というエールを直接私はいただきましたが、私が搭乗するための配慮も欠かさないところが、凄いと感嘆します。国際宇宙ステーション（ISS）の運用について若田宇宙飛行士から「こうやればいいよ」とアドバイスしていただいたのももちろんのこと、若田宇宙飛行士自身が ISS クルーとして不便だった改善点は既にフィードバックがかかっていて地上で担当者が準備してくれています。ありがたさが身にしみます。

——油井宇宙飛行士は、若田宇宙飛行士の搭乗にも立ち会われたのですか？

油井 ちょうどソユーズ宇宙船（36S）打ち上げ時、若田宇宙飛行士がバックアップの際に私はカザフスタンに赴きました。また今年の 11 月には私自身がバックアップクルーとして再度の来訪の機会が予定されています。一度経験がある上、更に注意深く客観的に見ることができる「おさらい」の機会があるので、気を楽にして臨めそうです。

——今までの先輩宇宙飛行士は、スペースシャトルへの搭乗もあつたりと数回宇宙への搭乗経験がありますが、油井宇宙飛行士は ISS 長期滞在が初回のミッションであることをどのように捉えていますか？

油井 自分は飾らないで、考えても分からないところは素直に尋ねて準備をしています。また ISS 滞在の一日の流れなど必要な項目は、イメージして「初めてなりにできること」をしています。

ロシアでの経験

——ロシアでの訓練を教えてください。

油井 ソユーズに搭乗するので、当然ロシアでの訓練があります。アサイメントが決まってから、ISS のロシアの部分の勉強も入ってきました。アメリカみたいに最低限必要な項目がリスト化されているのとは違い、歴史や背景理論から授業があるので勉強量は大変ですが、自分がかえって、楽しみながら勉強しています。試験は、口頭で細かい点まで突っ込んできます。ただ、これにしっかり答えると教官の評価がぐんと上がります。正直言うと、前職の航空自衛隊の時にはロシアの航空機が頻繁に日本の領空へ接近し、時には領空侵犯することがあったので不安や悪いイメージがありました。また、宇宙飛行士になってからはロシアの人とうまくやっていけるのが、心配でしたが、それは全くの杞憂でした。今までロシア人との人間関係で困ったことは一度もなく、



いい人ばかりです。

——それはよかったですね。案ずるより産むがやすし、ということだったのでしょうか？

油井 どちらかというと、「もし私が日本人で初めてロシアで訓練を受けてソユーズに搭乗」だったとしたら、おそらく大変だったのではないかなと思うのですが、これも日本人の先輩方が築いてくれた実績が大きいのだと思います。

若田宇宙飛行士も今回「初」船長だったので、口にこそ出されませんが、そんな様子はお見受けしませんが、おそらくご苦労や大変な思いはされたのだと思っています。

——分かります。若田宇宙飛行士の前回の ISS への飛行は、シャトルでの往復だったのですが、ロシアでの訓練もあったので、私がロシアで初の「日本人宇宙飛行士訓練プレス公開」を調整しました。ガガーリン宇宙飛行士訓練センター（GCTC）の入構申請の期間は時遅しだったし、英語でフォローのレターを書いても全然返事もらえない……という数々のジレンマもあったのですが、なりふり構わずコネクションを見つけ、行ったこともない場所へプレスを案内し、と今考えても相当無茶をしました（笑）。結果、無事公開できましたが、正式な広報窓口へ連絡できたわけではなく、お相手が国際部署の方だったので後日軌道修正されたと聞きました。

た。この失敗から私がロシアに対して感じたことは、米国はいわゆる、しかるべきコンタクトパーソン＝「担当ポジション」を重視しますが、ロシアはコネクション＝「パーソナル」がものを言う、と痛感したことです。脱線しましたが、私も事務方として「先人」を経験しましたが、ロシアでは、いい人に恵まれてよかったです。

ISS 搭乗、さらにその先へ

——ところで、この 7 月には星出宇宙飛行士船長のもと NEEMO (NASA 極限環境ミッション運用) 訓練を遂行されたり、油井宇宙飛行士の搭乗前後を拝見しても、非常に多くの同期の方に搭乗の機会がありますね？ 同じ訓練を受けた同期の方々とはミッション遂行の団結力が一層高まる等活躍が期待されますが、こちらに関してはどういうお気持ちですか？

油井 この夏の NEEMO#18 では、未搭乗の私の同期のマーク (マーク・ヴァンデハイ)、トマ (トマ・ペスケ)、ジャネット (ジャネット・エプス) が、唯一搭乗経験がある星出宇宙飛行士の指揮のもと、完璧にミッションを遂行しました。このように 2009 年の同期が活躍する場はたくさん今後も控えていることは自分自身への鼓舞にも繋がります。またその一方、アサインされていないクルーもいるので、早く決まるといいなと思っています。探査計画が進む折、利用などの面から ISS の成果が認められたため、ISS 存続の延長が、米国を始め日本でも合議されています。ISS を当然長く使ってほしいという思いがありますが、その分、仲間の搭乗機会が増えるので、非常にうれしいです。

——仲間という切り口が出たのでお聞きしたかったのですが、私が前回取材をした時は、油井宇宙飛行士はロシアでの訓練中で、前後のインクリメントクルーとちょうど宇宙食の試食試験の機会があったと思います。試験とはいえ、非常に和気あいあいと楽しそうに過ごしていらしたので、食の力は大きいと感じました。食にまつわるお話はいかがですか？

油井 日本では現在 28 品目の宇宙日本食が認証されており、新規の宇宙食の選定も秒読みと聞いています。※ただ、もう選定は済んでいるので残念ながら私の搭乗には間に合いません。

ロシアの宇宙食のお話をすると、前回ガガーリン宇宙飛行士訓練センター (GCTC) でご覧になった場所は、通常はフライトサージャンが詰めている建屋なのですが、おそらくお湯を沸かししたりする施設があるから、試食の場所として適していたのでしょう。私は魚の缶詰や肉のスープ煮などが好きで、ロシアの宇宙食は概しておいしい感じがしました。GCTC では勉強もしながら自炊もしますので、妻から秘伝のレシピを教えてもらっています。十八番は、いなり寿司。これを作ると「あ、作ったな！」と褒めてもらい、われわれのプロフィ (GCTC での宿泊場所) ではあっという間になくなります。

※取材は 2014 年 8 月の後半。JAXA からの宇宙日本食 追加認証発表は 2014 年 9 月 5 日でした。

——なるほど。食を通して文化の紹介もできますし、ISS でもコミュニケーションを図る上でも重要なアイテムですね。生きるために食べるという本来の目的も当然ありますが、今後、探査目的等の道のりが長い場合、摂る時間も含めて食事は非常に貴重ですね。

さて、最後に。油井宇宙飛行士は今後、宇宙飛行士としてどのようなことができるとお考えですか？

油井 自分がミッションを遂行した NEEMO #16 (2012 年実施) では、火星や小惑星を見据えて、地上との通信遅延を模擬した訓練を行いました。通信が途絶えている間、判断・指示は、地上の管制室からではなく、事態が起り得ている自分たちの場に移管され、アクションを行うことが重要になってきます。ISS では低軌道でのテストヘッドの実験・検証を今後行うことができますし、このような実証効果から使用価値が高まることが期待され、ISS での利用実験が増えることはもちろんですが、その前提には ISS の関係 5 極が協力し運用を続けていることが非常に象徴的です。地上ではウクライナを巡ってロシア・ア



第 16 回 NASA 極限環境ミッション運用 (NEEMO16) 訓練 3 日目、小型潜水艇の前にて、NEEMO16 クルーの (左から) 油井亀美也、ティモシー・ピーク両宇宙飛行士とサポートダイバー (JAXA/NASA)

メリカ間の情勢が険悪ですが、ISS では平和に対する変わらぬ貢献があるので、その点をまず、皆さんにぜひ知ってほしいです。また若田宇宙飛行士で実証済みですが、日本の宇宙飛行士は「和」「思いやり」をもって互いの文化を尊重し、まとめ上げる能力に秀でています。今後自分のミッションにおいて、橋渡しの役割も生かしたいと考えています。

個人的には、ISS での成果や、すばらしさを国民の皆さんに知っていただく必要性から、カメラを買って写真を撮る練習をしています。また Twitter でも紹介済みですが、苦手な歌も練習しています。地上の皆さんに届くことを思い描きながら、練習しているうちに好きになるといいなと思っています。